

2026 年度

佐賀大学理工学部

3 年次編入学

第 2 次学生募集要項

一 般 入 試

入試種別	出願期間	試験日	合格者発表	入学手続期間
一般入試 (第 2 次募集)	2025 年 10 月 23 日(木) ～10 月 30 日(木)	2025 年 12 月 5 日(金)	2025 年 12 月 16 日(火)	2026 年 1 月 19 日(月) ～1 月 22 日(木)

佐 賀 大 学

目 次

I	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	1
II	一般入試	12
III	出願上の留意事項	18
IV	障がい等のある志願者との事前相談について	19
V	個人情報の取扱いについて	20
VI	入学志願票等の記入上の注意及び記入例	21
VII	入学手続等	24
VIII	佐賀大学建物配置図及び佐賀大学へのアクセスマップ	26

※出願方法について

佐賀大学 3 年次編入学試験への出願は、佐賀大学入試課のホームページからダウンロードした出願書類を市販の用紙に印刷して提出する方法を採用しています。

A4 サイズの印刷が可能なプリンタ等がない方、ファイルがうまく表示されない方は、佐賀大学入試課に資料請求をしてください

●出願に際して

- 本学ホームページから必要なファイルをダウンロードしてください。
出願書類については、本要項記載の「出願に必要な書類等」でご確認ください。
- 検定料は振込依頼書を印刷し、銀行で振り込み手続きを行ってください。
- 印刷した出願用封筒ラベルを市販の角形 2 号の封筒に貼付し、書類一式を入れて提出してください。

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成，専門知識・技術の修得，そして基礎から実用開発にいたるまで，能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は，高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること，地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること，国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は，チャレンジ精神を持ち，問題を自発的に探求・解明し，社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

【1】求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

理工学部は、幅広い教養と理工学基礎力を土台として、多面的視点をもって社会の広い分野で活躍できる科学・技術の専門的素養を持つ人材を育成することを目的とします。編入生は13コースからいずれかを選択し、より専門的な内容を学びます。以下に、理工学科のカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める工業高等専門学校もしくは理工系短期大学等での学習の取り組みを示します。

理工学科

理工学科では、基礎科目から専門科目までを段階的に学んでいくことで、理工系の学問領域の幅広い基礎的知識と各学問分野での専門知識を身につけ、複眼的視点を持って広く社会で活躍できる人材を育成することを目的としています。そのため専門教育は、基礎学力や理工系分野のリテラシーを修得するための学部共通科目と各専門のコースで個別に開講される専門科目に大別されます。教養教育も含めたカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校や工業高等専門学校もしくは理工系短期大学等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目(インターフェース科目を除く。)	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくことが必要です。
教養教育科目(インターフェース科目)	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグルー学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通基礎科目	理工系人材に要求される基本的なリテラシーを修得するために、基本的な知識に加えて倫理観や自立した責任感ある行動力が求められます。またPBL学習を通して課題解決能力や複眼的視点を修得するために、共同して学ぶ姿勢や主体的な学習態度が必要です。
専門科目(コース別)	コース別の専門科目カリキュラム編成等を参照
卒業研究(コース別)	コース別の専門科目カリキュラム編成等を参照

<入学志願者に求める学習の取り組み>

理工学分野で学習する概念や法則、その応用や技術革新を理解するためには、まず理工学分野の基礎となる数学・物理・化学を土台とした基礎学力、そしてこれらを専門分野において活用できる能力が求められます。そのためには、高等学校や大学理工系基礎科目で履修するレベルの数学の基礎的理解が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ数学・理科については教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。

したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

各コース別の専門教育のカリキュラム編成と同カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める工業高等専門学校もしくは理工系短期大学等での学習の取り組みは以下の通りです。

数理サイエンスコース（数理分野）

数理サイエンスコースでは、数学を中心とする理学の領域で専門的知識を身につけ、広く社会で活躍できる人材を育成します。そのための専門教育のカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校並びに工業高等専門学校もしくは理工系短期大学等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目（必修）	数学の基本的な考え方及び論理的厳密性を修得するために、4年制大学の理工系学部において2年次修了時までには履修すべき数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、総合的な学習を通して課題解決能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

＜入学志願者に求める学習の取り組み＞

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには、微分積分、線形代数、集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につけることが必要です。そのためには、4年制大学の理工系学部において2年次修了時までには履修すべき数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。課題発見・解決能力を養うために必要な基本的思考力・判断力・表現力も重要です。

データサイエンスコース（データサイエンス分野）

データサイエンスコースでは、数理・データサイエンス・人工知能分野の専門的な素養を持ち、多様なデータから知見を得て課題を解決するデータサイエンティストとして社会の広い分野で活躍できる人材を養成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校並びに工業高等専門学校もしくは理工系短期大学等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	データサイエンス分野の基礎的な知識と技術を修得するために、4年制大学の理工学系学部において、2年次修了時まで履修すべき数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、データサイエンス分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、原則として学生それぞれが個別の研究テーマを担当し、研究計画の立案から実施・発表会での結果報告・卒業論文を一貫して行うことで、専門学修の総仕上げとします。そのため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

＜入学志願者に求める学習の取り組み＞

社会の第一線で活躍できるように、数理・データサイエンス・人工知能に関連した様々な専門科目を学びます。また、文書作成、口頭発表、技術英語を修得するとともに、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力なども育成します。そのためには、入学時点で、4年制大学の理工学系学部において2年次修了時まで履修すべき科目（数学、プログラミング、コンピュータ、英語など）について、しっかりと身につけることが必要で、情報分野の実験科目や演習科目も履修していることが望まれます。また、課題発見・解決能力を養うために必要な基本的思考力・判断力・表現力も重要です。そして、常日頃から数理・データサイエンス・人工知能に関する出来事に興味を持ち、これらの分野へ取り組む意欲も欠かせません。

知能情報システム工学コース・情報ネットワーク工学コース（情報分野）

情報分野を構成する知能情報システム工学コースと情報ネットワーク工学コースでは、知能情報システム工学または情報ネットワーク工学における専門知識・能力及び広い視野と判断力を持ち、他者と協力して、この社会（地域社会・国際社会・産業界等）で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校並びに工業高等専門学校もしくは理工系短期大学等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (知能情報システム工学コース)	知能情報工学分野の基礎的な知識と技能を修得するために、4年制大学の理工系学部において2年次修了時まで履修すべき数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、情報技術分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (情報ネットワーク工学コース)	情報ネットワーク工学分野の基礎的な知識と技能を修得するために、4年制大学の理工系学部において2年次修了時まで履修すべき数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、ネットワーク技術分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力と実践力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、原則として学生それぞれが個別の研究テーマを担当し、研究計画の立案から実施・発表会での結果報告・卒業論文を一貫して行うことで、専門学修の総仕上げとします。そのため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

＜入学志願者に求める学習の取り組み＞

情報分野では、社会の第一線で活躍できるように、知能情報システム工学や情報ネットワーク工学に関連した様々な専門科目を学びます。また、文書作成、口頭発表、技術英語を修得するとともに、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力なども育成します。そのためには、入学時点で、4年制大学の理工系学部において2年次修了時まで履修すべき科目（数学、プログラミング、コンピュータ、英語など）について、しっかりと身につけることが必要で、情報分野の実験科目や演習科目も履修していることが望めます。また、課題発見・解決能力を養うためには、必要な基本的な思考力・判断力・表現力も重要です。そして、常日頃から情報工学に関する出来事に興味を持ち、これらの分野へ取り組む意欲も欠かせません。さらに、情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を身に付けることも必要です。そして、高い学習意欲を持ち、知識の獲得に積極的な学生の入学を望みます。

生命化学コース・応用化学コース（化学分野）

化学分野を構成する生命化学コースと応用化学コースでは、化学を通して継続的に社会に貢献することのできる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校並びに工業高等専門学校もしくは理工系短期大学等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (生命化学コース)	生命化学・分子生物学の知識を体系的に身に付けていくために、生命化学分野を主たる内容とした専門科目の講義を、無機化学、有機化学・生命化学、物理化学、分析化学、化学工学の5つの分野で構成・配置し、理解と実践力を修得します。したがって、4年制大学の理工系学部において2年次修了時までに履修すべき化学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、生命化学分野のプロフェッショナルとして課題を発見し、解決する能力、および課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (応用化学コース)	物質化学・材料化学分野の知識を体系的に身に付けていくために、材料化学への応用を主な内容とした専門科目の講義を、無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学の5つの分野で構成・配置し、理解と実践力を修得します。したがって、4年制大学の理工系学部において2年次修了時までに履修すべき化学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、材料化学分野のプロフェッショナルとして課題を発見し、解決する能力、および課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、各コースの指導教員の下、総合的な学習を通して自ら仕事を計画・遂行していく能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

<入学志願者に求める学習の取り組み>

化学は、さまざまな物質や材料の構造や機能の関係性を明らかにするために、それらを詳細に調べ、新しい物質の合成や分析を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このように化学を専門的に学ぶためには、4年制大学の理工系学部において2年次修了時までに学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の物理的性質や生化学的性質を理解するためには物理学や生物学の知識が必要となります。したがって、4年制大学の理工系学部において2年次修了時までに学習する数学、物理および生物の基礎学力は、化学を専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校等で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

物理学コース（物理学分野）

物理学コースでは、物理学を中心とする理学の領域で専門的知識を身につけ、広く社会で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校並びに工業高等専門学校もしくは理工系短期大学等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目（必修）	物理学の基本的な考え方及び論理的厳密性を修得するために、4年制大学の理工系学部において2年次修了時まで履修すべき物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では、グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。
専門科目（選択）	物理学の思考力、表現力および数学の各分野における論理を理解するために、4年制大学の理工系学部において2年次修了時まで履修すべき物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では、グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、社会の中で直面する諸問題を正確に理解し対処する力を修得することになりますので、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

<入学志願者に求める学習の取り組み>

物理学における基本的な概念や法則を理解するためには、4年制大学の理工系学部において2年次修了時まで履修すべき物理と数学の基本的事項の理解および計算能力と、それらの知識に基づく論理的な思考力が求められます。また、実験や観測を通して法則を見出すための洞察力も必要です。さらに、専門的な知識や考え方を修得するために、海外の文献にも目を通すことから、基礎的な英文読解力とともに英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

機械エネルギー工学コース・メカニカルデザインコース（機械工学分野）

機械工学分野を構成する機械エネルギー工学コースとメカニカルデザインコースでは、機械工学に関する領域において、専門的な基礎知識及びその応用力並びにものづくりの素養を身に付けた技術者となる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校並びに工業高等専門学校もしくは理工系短期大学等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (機械エネルギー工学コース)	エネルギー工学に関する基礎的知識、技能を修得するために、4年制大学の理工系学部において2年次修了時まで履修すべき数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、エネルギー工学の観点からものづくりを実際に行うための機械設計、製図を通し、課題を発見・探求・解決する力を身につけるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (メカニカルデザインコース)	システム工学に関する基礎的知識、技能を修得するために、4年制大学の理工系学部において2年次修了時まで履修すべき数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、企業等が生産現場で抱える課題やニーズに対応するための課題発見、解決能力を修得するために、演習や実験などを含む体験型学習を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、各コースの指導教員の下、総合的な学習を通して実社会における諸問題の発見・解決能力を習得するために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

<入学志願者に求める学習の取り組み>

機械工学は、すべてのものづくりに欠かせない技術であり、今後も重要となる産業界の諸問題の基となる学問です。それを修得するためには、4年制大学の理工系学部において2年次修了時まで学ぶ数学、物理、化学の基本的事項を理解し、教科書レベルの基本問題を解く能力を十分身につけておく必要があります。また、機械工学に関する講義の理解、レポート作成、プレゼンテーションにおいて、読解力や記述力などの国語能力、世界情勢や歴史、文化など社会科で学ぶ一般的な知識も求められます。さらに様々な分野で将来的に活躍するためには、英文の読解や作成、コミュニケーションなど基礎的な英語力は欠かせないものです。機械工学によるものづくりを通じた社会への貢献に興味と熱意を持つことを期待します。

電気エネルギー工学コース・電子デバイス工学コース（電気電子工学分野）

電気エネルギー工学コースと電子デバイス工学コースでは、電気電子工学の専門知識・能力と広い視野と判断力を持ち、他者と協力して、地域社会・国際社会・産業界等で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムの適応に必要な能力や適性、さらに入学志願者に高等学校並びに工業高等専門学校もしくは理工系短期大学等の学習で取り組んでいただきたい内容を下記に示します。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (電気エネルギー工学コース)	電気エネルギー工学コースでは、電磁気学、電気回路、電子回路などの電気電子工学の基礎的な専門知識と電気エネルギーの発生、変換、利用などについて学修します。それらの基礎的な知識と技術を修得するために、数学と物理の理解力と応用力が必要です。また、電気電子工学実験では、PDCA（Plan→Do→Check→Action）サイクルの実践的な能力を修得し、チーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (電子デバイス工学コース)	電子デバイス工学コースでは、電磁気学、電気回路、電子回路などの電気電子工学の基礎的な専門知識と半導体の物性、電子デバイスの原理、電子工学への応用などについて学修します。それらの基礎的な知識と技術を修得するために、数学と物理の理解力と応用力が必要です。また、電気電子工学実験では、PDCA（Plan→Do→Check→Action）サイクルの実践的な能力を修得し、チーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、原則として学生それぞれが個別の研究テーマを担当し、研究計画の立案から実施・発表会での結果報告・卒業論文を一貫して行い、専門学修の総仕上げとします。そのためには、3年次までの教育課程の内容を十分に学修できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、積極的に学習・研究活動を進めていく能力や姿勢を持っていることは必要です。

<入学志願者に求める学習の取り組み>

電気電子工学分野では、社会の第一線で活躍できるように、電気電子工学に関連した様々な専門科目を学びます。また、文書作成、口頭発表、技術英語を修得するとともに、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力なども育成します。そのためには、入学時点で、4年制大学の理工系学部において2年次修了時まで履修すべき数学、理科（物理や化学）などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身につけていることが必要で、教科書レベルの知識を有していることを求めます。また、国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。課題発見・解決能力を養うために必要な基本的思考力・判断力・表現力も重要です。そして、常日頃から電気電子工学に関する出来事に興味を持ち、これらの分野へ取り組む意欲も欠かせません。

都市基盤工学コース・建築環境デザインコース（都市工学分野）

都市工学分野を構成する都市基盤工学コースと建築環境デザインコースでは、都市工学の領域における専門的知識・技能を身に付け、都市・地域の持続的発展に貢献できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校並びに工業高等専門学校もしくは理工系短期大学等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (都市基盤工学コース)	社会基盤工学に関する基礎的知識、分析力、考察力だけでなく、安全・安心な都市・地域の環境基盤整備や都市・地域の環境基盤をより一層豊かにするための高度な知識・技能を修得するために、4年制大学の理工系学部において2年次修了時までに履修すべき数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、社会基盤工学分野のプロフェッショナルとして課題発見能力および課題解決能力を身に付けるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (建築環境デザインコース)	建築都市デザインに関する基礎的知識、分析力、考察力だけでなく、身の回りの居住環境・建築環境の快適性を最適に保つための知識・技能、現代社会に対応した建築・都市空間を計画・設計する能力を修得するために、4年制大学の理工系学部において2年次修了時までに履修すべき数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、歴史や文化・伝統などに関する専門的観点から多様な価値観を理解する力、都市・地域の持続的発展に向けた建築・都市空間のあり方を提示する力を身に付ける必要がありますので、高等学校並びに工業高等専門学校もしくは理工系短期大学等で履修する国語、地理、歴史といった幅広い教科や科目の基礎的理解が必要です。さらに、建築都市デザイン分野のプロフェッショナルとして課題発見能力および課題解決能力を身に付けるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、各コースの指導教員の下、総合的な学習を通して実社会における諸問題の発見・解決能力を習得するために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

<入学志願者に求める学習の取り組み>

都市における社会基盤・建築物等の整備と安全・安心の確保は非常に重要ですが、同時に自然環境や歴史、風土等との調和も必要です。都市工学分野では、都市や地域に関する理解、形態や空間を扱うデザインも学問対象としていますので、様々な社会的事象および文化や歴史についても関心を持つことが求められます。したがって、4年制大学の理工系学部において2年次修了時までに学ぶ数学・物理など自然科学の基礎力、論理的思考を支える国語力、英語で書かれた文献の理解のための英語力、さらに地域の文化や歴史に目を向け得るための社会的な基礎知識などを学習することを期待します。

【2】入学者選抜の基本方針

選抜方法	目的と概要
3 年次編入学試験	短期大学、専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業者で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法によって、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

編入学試験

各コースの専門分野において、さらに高度な専門教育・研究を希望する他教育機関からの学生を対象に3年次編入学試験を行います。編入学試験では、「一般入試」、「推薦入試」および「外国人留学生特別入試」の3つの区分により、入学希望者を選考します。

【一般入試】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。また、各コースに対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

【推薦入試】

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、推薦書、小論文および口頭試問によって評価します。また、各コースに対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【外国人留学生特別入試】

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、入学後の学習に必要な日本語の習得について判断するために、日本留学試験の成績を用いて評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。さらに、各コースに対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

【3】入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 工業高等専門学校または理工系短期大学で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学、理科に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ 専門科目と特に関係の深い教科・科目に関する十分な知識・技能と、これらを踏まえた高度な思考力・判断力・表現力
- ④ 志望分野で学ぶために必要な基礎的な知識・技能
- ⑤ 専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑥ 本学部で学びたいという強い意欲
- ⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

Ⅱ 一般入試

1 募集分野・コース及び募集人員

分野	コース	募集人員
数理分野	数理サイエンスコース	2 人
データサイエンス分野	データサイエンスコース	
情報分野	知能情報システム工学コース	
	情報ネットワーク工学コース	
化学分野	生命化学コース	
	応用化学コース	
物理学分野	物理学コース	
機械工学分野	機械エネルギー工学コース	
	メカニカルデザインコース	
電気電子工学分野	電気エネルギー工学コース	
	電子デバイス工学コース	
都市工学分野	都市基盤工学コース	
	建築環境デザインコース	

(注) 情報分野、化学分野、機械工学分野、電気電子工学分野は、2 コースの中から第 2 志望まで志望できます。

2 編入学年次

2026 年 4 月 1 日に 3 年次に編入学します。

3 出願資格

次のいずれかに該当する者とします。

- (1) 高等専門学校を卒業した者及び 2026 年 3 月までに卒業見込みの者
 - (2) 短期大学を卒業した者及び 2026 年 3 月までに卒業見込みの者
 - (3) 大学を卒業した者及び 2026 年 3 月までに卒業見込みの者
 - (4) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者及び 2026 年 3 月までに授与される見込みの者
 - (5) 大学に 2 年以上（休学期間を除きます。）在学し、62 単位以上を修得した者及び編入学時まで大学に 2 年以上（休学期間を除きます。）在学し、62 単位以上を修得見込みの者
 - (6) 学校教育法第 58 条の 2 の規定による高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）の専攻科の課程（修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限りま
- す。）を修了した者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限ります。）及び 2026 年 3 月までに修了見込みの者

4 対象となる学科等

分野・コース		区分	対象となる 高等専門学校の 学科	対象となる 短期大学の 学科	対象となる大学
数理分野	数理サイエンスコース		全学科		「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者で、微分積分学、線形代数学の単位修得（見込み）の者
データサイエンス分野	データサイエンスコース		理工系の 情報系学科 (注 1)	理工系の 情報系学科 (注 1)	「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者
情報分野	知能情報システム工学コース		理工系の 情報系学科 (注 1)	理工系の 情報系学科 (注 1)	「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者
	情報ネットワーク工学コース				
化学分野	生命化学コース		化学関連学科	化学関連学科	「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者
	応用化学コース				
物理学分野	物理学コース		物理学関連 学科（注 2）		物理学科等の物理学関連学科
機械工学分野	機械エネルギー工学コース		機械系関連 学科	機械系関連 学科	「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者
	メカニカルデザインコース				
電気電子工学 分野	電気エネルギー工学コース		電気系学科 (注 3)	電気系学科 (注 3)	「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者
	電子デバイス工学コース				
都市工学分野	都市基盤工学コース		土木・建築・ 都市系学科	土木・建築・ 都市系学科	「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者
	建築環境デザインコース				

（注 1）情報系学科の範囲について不明な場合は、出願前に学務部入試課に問い合わせてください。

（注 2）物理関連学科とは、機械系・電気系など、基礎的な物理学の内容を必須科目として開講している学科を言います。

これに関して不明な場合は、出願前に学務部入試課に問い合わせてください。

（注 3）電気系学科の範囲について不明な場合は、出願前に学務部入試課に問い合わせてください。

5 出願期間

2025 年 10 月 23 日（木）～2025 年 10 月 30 日（木）

ア 持参の場合は、土曜日、日曜日及び祝日を除き、毎日 9 時から 17 時まで受け付けます。

イ 郵送の場合は、「簡易書留」とし、下記の日時までには必着するよう送付してください。

2025 年 10 月 30 日（木）17 時まで

ウ 角形 2 号の封筒に本学所定の封筒表紙を貼付し提出してください。

6 出願に必要な書類等

区 分	備 考
入学検定料 (30,000 円)	本学所定の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。 次の場合は、検定料の返還請求ができますので、必ず手続きをしてください。 ・検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合 ・検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合 ・検定料を誤って二重に振り込んだ場合 なお、返還請求の方法等については、学務部入試課までお問い合わせください。上記の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。
検定料振込証明台紙	上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C 票 検定料振込証明書」を台紙に貼り付けてください。
入学志願票・ 写真票・受験票	「※」以外の所定の欄はすべて記入してください。 写真は上半身、脱帽、正面向きで、出願前 3 か月以内に撮影したものを所定の欄に貼り付けてください。
成績証明書	最終学歴（中途退学を含みます。）の成績証明書
卒業証明書又は 卒業見込み証明書（注 1）	出身学校等作成の卒業見込み証明書を提出してください。4 年制大学を中途退学した者は在学期間証明書を、在学中の者は在学証明書を提出してください。
調査書	本学所定の用紙を用いてください。（出身学校長が作成し、厳封したもの）ただし、調査書の提出が困難な場合は、志願理由書を提出してください。
志願理由書	調査書の提出が困難な者は提出してください。
出願承認書	本学所定の用紙を用いてください。（ただし、在職中の者に限ります。）
返信用封筒	受験票を送付しますので、長形 3 号の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記し、「受験票在中」と朱書きの上、110 円分の切手を貼り付けてください。
TOEIC スコア証明書（公開 テスト又は IP テスト）、 TOEFL スコア証明書（ITP テストを含む）又は IELTS スコア証明書 （機械工学分野、都市工学分野志願 者のみ）	機械工学分野、都市工学分野志願者のみ、入学試験日から 2 年以内に受験した TOEIC テスト（公開テスト又は IP テスト）、TOEFL テスト（ITP テストを含む）、又は IELTS（アカデミック・モジュールに限る）のスコア証明書の原本（注 2）を提出してください。スコア証明書は受験票を発送する際に併せて返却します。 ※複数提出可
住所届	本学所定の住所届に必要な事項を記入してください。
「住民票」又は 「在留カード」の写し	○日本国籍を有しない者で、現に日本国内に在住しているときは、市区町村長の発行する「住民票の写し」（在留資格が記載されたもの）を提出してください。（在留カードの表裏両面をコピーしたものでも可） ○出願時に日本国内に在住していない者は、パスポートの写し（写真及び在留資格・期間の分かるページ）を提出してください。

（注 1）合格者について、出願資格(1)～(3)にかかる 2026 年 3 月卒業見込みの者（本学出身者は除きます。）は「卒業証明書」を、出願資格(4)にかかる学位取得見込みの者は「学位記」の写し又は「学位授与証明書」を卒業後速やかに提出してください。出願資格(5)にかかる編入学時まで大学に 2 年以上（休学期間を除きます。）在学し、62 単位以上を修得見込みの者は、「在学期間証明書」及び「成績証明書」を 2026 年 3 月 31 日までに提出してください。出願資格(6)にかかる 2026 年 3 月修了見込みの者は「修了証明書」を修了後速やかに提出してください。

提出先：佐賀大学学務部入試課 〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町 1 番地

（注 2）スコア証明書の原本について、「TOEIC-IP テスト（オンライン版）」のテスト結果については、出願書類として提出することはできません。なお、「TOEFL iBT Home Edition」のスコア証明書に関しては出願書類として提出できます。TOEIC 公開テストのスコアについては、デジタル公式認定証の PDF を印刷したものを出願書類として提出できます。IELTS（アカデミック・モジュールに限る）のスコア証明書については、ペーパー版及びコンピューター版のいずれでも出願書類として提出できます。

災害救助法が適用されている地域で被災された佐賀大学志願者への入学検定料の免除について

1) 免除の対象となる者

佐賀大学の学部又は大学院に入学を志願する者のうち、災害救助法（昭和 22 年法律第 118 号）が適用されている地域で被災し、次のいずれかに該当する者

（ア）災害により、主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流出の被害を受けた者

（イ）災害により、主たる家計支持者が死亡した者

2) 対象となる入学試験及び措置内容

災害が発生した後に実施する学部入試（編入学を含む）及び大学院入試に係る入学検定料を全額免除（入試成績の開示請求に係る成績通知手数料は除く。）する。

3) 免除の対象となる期間

上記 2) の入学試験は当該災害が発生した年度及び翌年度までの 2 年間に実施予定のものとする。

4) 申請方法

申請予定者は、電話による事前審査を行いますので、出願を行う前に本学学務部入試課にご連絡の上、次の申請書類を入学者選抜試験の出願書類とともに提出してください。

（ア）検定料免除申請書本学ホームページ「[受験生の方へ→3 年次編入学→募集要項](#)」からダウンロードできます。

（イ）り災証明書又は被害証明書（上記 1）（ア）に該当する者）

（ウ）死亡を証明する書類（上記 1）（イ）に該当する者）

出願後に免除の対象となった者には、出願年度に限り入学検定料の返還を行いますので、本学学務部入試課までご連絡ください。

7 入試方法

入学者の選抜は、学力検査、面接、成績証明書の内容等を総合して、合格者を決定します。

8 配点等

分野	入試方法等	学力検査				面接(注 2)	総合評価
		口述試験	数学	英語(注 1)	専門科目		
数理分野	100					100	良／可／不可
データサイエンス分野			100		200	100	良／可／不可
情報分野			100		200	100	良／可／不可
化学分野			100	50	200	100	良／可／不可
物理学分野			100		200	100	良／可／不可
機械工学分野			100	50	200	100	良／可／不可
電気電子工学分野			100		200	100	良／可／不可
都市工学分野			100	50	200	100	良／可／不可

（注 1）機械工学分野及び都市工学分野においては、外部検定試験（TOEIC、TOEFL 又は IELTS）のスコアを利用します。複数のスコア証明書が提出された場合は、評価が一番良いものを採用します。

（注 2）成績証明書は面接の資料とします。

9 試験日時等

(1) 試験日時：2025 年 12 月 5 日（金）

受験者は、受験票とともに送付される受験案内に記載されている試験室（数理分野受験者は面接控室）に試験開始 30 分前までに入室してください。

志望分野・コース		試験科目	試験時間
数理分野	数理サイエンスコース	口述試験及び面接	13：00～
データサイエンス分野	データサイエンスコース	数学	9：20～10：50
		専門科目	11：00～12：30
		面接（※）	13：30～
情報分野	知能情報システム工学コース 情報ネットワーク工学コース	数学	9：20～10：50
		専門科目	11：00～12：30
		面接（※）	13：30～
化学分野	生命化学コース 応用化学コース	英語	9：20～10：20
		数学	10：30～12：00
		専門科目	13：00～15：30
		面接	15：40～
物理学分野	物理学コース	数学	10：30～12：00
		専門科目	13：00～15：00
		面接	15：10～
機械工学分野	機械エネルギー工学コース メカニカルデザインコース	数学	10：30～12：00
		専門科目	13：00～15：30
		面接	15：40～
電気電子工学分野	電気エネルギー工学コース 電子デバイス工学コース	数学	10：30～12：00
		専門科目	13：00～15：30
		面接	15：40～
都市工学分野	都市基盤工学コース 建築環境デザインコース	数学	10：30～12：00
		専門科目	13：00～15：30
		面接	15：40～

（備考）分野・コースによって志願者数により終了時刻が遅くなる場合がありますので、留意ください。

（※）データサイエンス分野及び情報分野の志願者において、面接時に自身で開発・分析した結果を披露する等の場合、受験者が持参するノートパソコン等の使用を認めます。ただし、持参使用に伴う電源・通信の確保や面接時間の延長は行いません。

(2) 数学，専門科目及び口述試験

分野・コース		数 学	専門科目	口述試験
数理分野	数理サイエンスコース	微分積分学 線形代数学	プログラミング	微分積分学 線形代数学
データサイエンス分野	データサイエンスコース			
情報分野	知能情報システム工学コース 情報ネットワーク工学コース	微分積分学 線形代数学	プログラミング	
化学分野	生命化学コース 応用化学コース	微分積分学	化学	
物理学分野	物理学コース	微分積分学 線形代数学	力学，電磁気学	
機械工学分野	機械エネルギー工学コース メカニカルデザインコース	微分積分学 線形代数学 常微分方程式	材料力学，流体工学， 機械工作，熱力学 (2科目を選択解答)	
電気電子工学分野	電気エネルギー工学コース 電子デバイス工学コース		電磁気学，電気回路	
都市工学分野	都市基盤工学コース		水理学，構造力学， 土質力学	
	建築環境デザインコース		建築環境工学， 建築計画学， 建築デザイン学	

※電卓の持ち込みはできません。

10 試験場

佐賀大学理工学部

11 合格者発表

2025年12月16日(火)10時

本学ホームページに合格者の受験番号を掲載するほか，合格者には本学所定の合格通知書をもって通知します。

なお，電話による合否に関する問い合わせには一切応じません。

Ⅲ 出願上の留意事項

- (1) 出願書類を郵送する場合は、所定の封筒に必要事項を記入の上、「簡易書留」としてください。
- (2) 入学志願票の記入事項及び書類等の不備のものは受け付けません。
- (3) 出願書類受理後は、いかなる理由があっても記入事項及び書類の変更は認めません。
また、納入された入学検定料及び出願書類は、いかなる事情があっても返還しません。
- (4) 合格通知書及び入学手続書類は、「住所届」に記載された現住所に送付しますので、正確に記入してください。
なお、出願後、住所に変更があった場合は、電話連絡するとともに、ハガキ等でもお知らせください。

IV 障がい等のある志願者との事前相談について

障がい等のある志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、本学ホームページ「[受験生の方へ→3 年次編入学→募集要項](#)」から「障がい等のある志願者による事前相談申請書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、以下の書類を添えて学務部入試課に送付し相談してください。

なお、本学では、ウェルビーイング創造センター学修支援部門を設置して、障がい等のある学生及び障がい等のある入学志願者への支援を行っています。

*添付書類

- 医師の診断書

*相談の期限

出願開始の1週間前

なお、相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので、可能な限り早めに相談してください。

また、期限後に本学を志願することとなった場合及び出願後の不慮の事故等により受験上及び修学上の配慮を希望する場合は、その時点で速やかに相談してください。

*受験上の配慮の一例

- 試験時間の延長
- 1 階又はエレベーターが利用可能な試験室で受験
- 多目的トイレに近い試験室で受験
- 座席を最前列／最後列／出入口付近等に指定
- 別室の設定
- 補聴器又は人工内耳の装用
- 特製机・椅子の持参使用
- 車椅子の持参使用
- 杖の持参使用
- 拡大文字問題冊子の配付
- 注意事項等の文書による伝達
- 試験場への乗用車での入構
- 試験室入口までの付添者の同伴

V 個人情報の取扱いについて

佐賀大学は、「個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人佐賀大学個人情報保護規則」等に基づき、本学が保有する個人情報の適正な管理と保護に努めています。本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報及び入学手続き時に提出いただく書類に記載されているすべての個人情報は、次の業務で利用します。

- (1) 入学者選抜・入学手続きに関する業務
- (2) 教務関係（学籍管理、修学指導及び教育課程の改善等）に関する業務
- (3) 学生支援関係（健康管理、入学料免除、入学料徴収猶予、奨学金及び就職支援等）に関する業務
- (4) 入学者選抜及び大学教育の改善に関する調査・研究に関する業務（ただし、個人が特定される形で、その成果を公表することはありません。）
- (5) その他個人が特定できない形式で行う統計に関する業務
- (6) (4)及び(5)については、データの電子化、印刷、製本等の業務を業者に委託する場合があります。

本学が取得した個人情報は、法令に基づく場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく上記業務以外での目的で利用又は第三者に提供することはありません。

VI 入学志願票等の記入上の注意及び記入例

- (1) 志願票の記入に当たっては、募集要項を熟読の上、下記の「記入例」に従い、必ず志願者本人が記入してください。
- (2) 記入に当たっては、手書きの場合、ペン（黒）又はボールペン（黒）を用い、文字及び数字（算用数字）は、丁寧に記入してください。
- (3) ※印欄は、記入しないでください。

（記入例）

「志望学部、学科、分野、コース」及び「コード（第4表参照）」の欄

志 望 学 部 ， 学 科 ， 分 野 ， コ ー ス				コード（第4表参照）		
理工学部				1	3	
理工学科	第1志望 応用化学 コース			K	C	
化学分野	第2志望 生命化学 コース					

- 志望学部、学科、分野、コース欄は、志望する学部名等を正確に記入してください。コード（第4表参照）の欄は「第4表」により、志望学部、分野コード番号の数字等を1コマ1ケタずつ、正確に記入してください。
- 情報分野、化学分野、機械工学分野、電気電子工学分野志願者は2コースの中から第2志望まで志望できます。

「氏名」の欄

漢 字 (アルファベット)	佐	賀		学			
氏 名							
フ リ ガ ナ (カタカナ)	サ	ガ		マ	ナ	ブ	

●漢字等氏名

常用漢字で記入してください。

（JIS 漢字コードの第1・第2水準以外の文字を含む場合、その文字が置き換えられます。）

【置き換えられる文字の例】

高 → 高 崎 → 崎 桑 → 桑
土 → 土 吉 → 吉 原 → 原

「性別」及び「生年月日」の欄

性別		生 年 月 日							
男	女	西 暦 年				月		日	
○		2	0	0	5	0	8	2	3

●性別欄は、該当する方に○を記入してください。

●生年月日を記入する欄で、月及び日が1ケタの場合は右づめとし、前1コマに「0」を記入してください。

「出身県等」及び「出身学校等」の欄

出身県等		留 学 生		選抜種別	出 身 学 校 等							
第 1 表 参照		国・地域 第 2 表参照			第 3 表 参照		卒 業 等 年 月					
							西 暦				年	
4	1			2	1	2	2	0	2	6	0	3

- 出身県等欄は、「第 1 表」により、出身県等のコード番号の数字を 1 コマ 1 ケタずつ、正確に記入してください。
- 留学生については、「第 2 表」により、該当する国・地域のコード番号の数字を 1 コマ 1 ケタずつ、正確に記入してください。
- 出身学校等欄は、「第 3 表」により、出身学校等のコード番号の数字を 1 コマ 1 ケタずつ、正確に記入し、卒業等年月（見込みを含みます。）を西暦で記入してください。

「最終学歴」の欄

最終学歴	
☒ 国立・ ☐ 公立・ ☐ 私立	
佐賀	☐ 高等専門学校 ☒ 短期大学 大学 ☐ そ の 他
理工学部理工学科	学部 学科
昭和	☐ 卒 業
平成 8 年 3 月 31 日	☐ 卒 業 見 込 み
令和	☒ そ の 他

- 最終学歴を正確に記入してください。
- 大学に 2 年以上在学し、62 単位以上を修得した者または修得見込みの者として出願する場合は、最終在籍（予定）日を記入の上、「その他」にチェックを記入してください。

「現住所及び連絡先等」の欄

- 本学から出願書類等について連絡する場合がありますので、正確に記入してください。なお、出願後、この欄に変更があった場合は、電話連絡するとともに、ハガキ等でもお知らせください。

「住所届」

- 合格通知書は、これに記載された現住所に送付しますので、正確に記入してください。なお、出願後、住所に変更があった場合は、電話連絡するとともに、メール等でもお知らせください。

(第1表) 都道府県等コード

北海道	01	埼玉県	11	岐阜県	21	鳥取県	31	佐賀県	41
青森県	02	千葉県	12	静岡県	22	島根県	32	長崎県	42
岩手県	03	東京都	13	愛知県	23	岡山県	33	熊本県	43
宮城県	04	神奈川県	14	三重県	24	広島県	34	大分県	44
秋田県	05	新潟県	15	滋賀県	25	山口県	35	宮崎県	45
山形県	06	富山県	16	京都府	26	徳島県	36	鹿児島県	46
福島県	07	石川県	17	大阪府	27	香川県	37	沖縄県	47
茨城県	08	福井県	18	兵庫県	28	愛媛県	38		
栃木県	09	山梨県	19	奈良県	29	高知県	39		
群馬県	10	長野県	20	和歌山県	30	福岡県	40	外国	99

(第2表) 国・地域コード

パキスタン	101	大韓民国	113	トルコ	202	ウガンダ	312	オランダ	710
インド	102	モンゴル	114	イスラエル	203	エチオピア	320	ドイツ	711
ネパール	103	ベトナム	115	シリア・アラブ共和国	204	オーストラリア	401	フランス	712
バングラデシュ	104	中華人民共和国	116	バーレーン	215	ニュージーランド	402	スペイン	713
スリランカ	105	カンボジア	117	エジプト	301	カナダ	501	イタリア	715
ミャンマー	106	ブータン	118	スーダン	302	アメリカ合衆国	502	ポーランド	721
タイ	107	ラオス	119	リビア	303	ドミニカ	607	チェコ	722
マレーシア	108	ブルネイ	120	ケニア	307	ブラジル	608	ハンガリー	723
シンガポール	109	マカオ	121	タンザニア	308	ホンジュラス	618	ブルガリア	726
インドネシア	110	台湾	122	コング	309	パナマ	619	スロバキア	732
フィリピン	111	朝鮮民主主義人民共和国	191	ナイジェリア	310	イギリス	707	ウズベキスタン	734
香港	112	イラン	201	ガーナ	311	ルクセンブルク	709	その他	801

(第3表) 出身学校等コード

高等専門学校	11
短期大学（国内）	12
短期大学（国外）	13
その他（大学を含む）	19

(第4表) 学部、分野コード

理工学部	13	数 理 分 野	KA
		データサイエンス分野	KH
		情 報 分 野	KB
		化 学 分 野	KC
		物 理 学 分 野	KD
		機 械 工 学 分 野	KE
		電 気 電 子 工 学 分 野	KF
		都 市 工 学 分 野	KG

Ⅶ 入学手続等

1 入学手続

入学手続はオンラインにより行います。

入学手続の方法等については、合格通知書を送付する際に手続に関するお知らせを同封しますので、必ず確認してください。

手続期間： 2026 年 1 月 19 日（月）～1 月 22 日（木）

※期間内に入学手続をしなかった者は、入学辞退者とします。

2 入学手続の内容

入学手続期間内において、関係書類の提出及び入学料の納入を完了してください。

入学料：282,000円（入学手続時に納入してください。）

※この金額は、2025年4月現在のものです。

※納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

3 授業料について

(1) 授業料の金額

前期分 267,900 円 後期分 267,900 円 [年額 535,800 円]

※この金額は、2025 年 4 月現在のものです。

(2) 納入方法

授業料は「口座振替制度」の利用をお願いしています。

(3) 口座振替予定日

前期分 2026 年 5 月 27 日 後期分 2026 年 11 月 27 日

※口座振替日が土日・祝日の場合は金融機関の翌営業日の引き落としとなります。

(留意事項)

(1) 入学時又は在学中に納入金の改定が行われた場合には、改定後の入学料及び授業料を納入していただくことになります。なお、合格通知書送付の際、納入方法を含め、改めてお知らせします。

(2) 「高等教育の修学支援新制度による入学料及び授業料減免制度」と「佐賀大学独自の授業料等免除制度」により入学料免除・授業料免除を実施しています。

申請資格や申請方法等、詳しくは佐賀大学ホームページ内の「授業料免除」ページをご確認ください。

佐賀大学ホームページ「授業料免除」

<https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kezai.html>

（入学料免除・授業料免除に関する問い合わせ先）

佐賀大学学務部学生生活課授業料免除主担当 TEL 0952-28-8486

4 奨学金

独立行政法人日本学生支援機構法に基づき、願い出により選考の上、次の金額が貸与・給付されます。

第一種奨学金（無利子）	貸与月額
	自宅 20,000 円, 30,000 円, 45,000 円
	自宅外 20,000 円, 30,000 円, 40,000 円, 51,000 円
第二種奨学金（有利子）	貸与月額
	20,000 円から 120,000 円から選択（10,000 円単位）

給付型奨学金

住民税非課税世帯・準ずる世帯・多子世帯の学生に対して、①+②の支援

①授業料減額又は免除 535,800 円（上限額）

②返済不要の給付型奨学金を支給 約 667,000 円（自宅外通学の場合の上限額）

詳しくは、高等教育の修学支援新制度 HP（授業料免除と給付奨学金）をご確認ください。

<https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>

なお、この他に地方公共団体等の奨学金制度がありますが、詳細は下記の問い合わせ先をお願いします。

奨学金に関する問い合わせ先

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部学生生活課奨学金担当

TEL 0952-28-8172

5 編入学後の履修について

- (1) 入学者が高等専門学校、短期大学又は大学等において修得した単位については、各学部の規定に基づき、単位を認定します。

理工学部では、技術者教育プログラムの対象となる編入学者については、JABEE（日本技術者教育認定機構）の基準を満足する単位認定を行います。詳細は各分野・コースのホームページを参照してください。

機械工学分野 <http://www.me.saga-u.ac.jp>

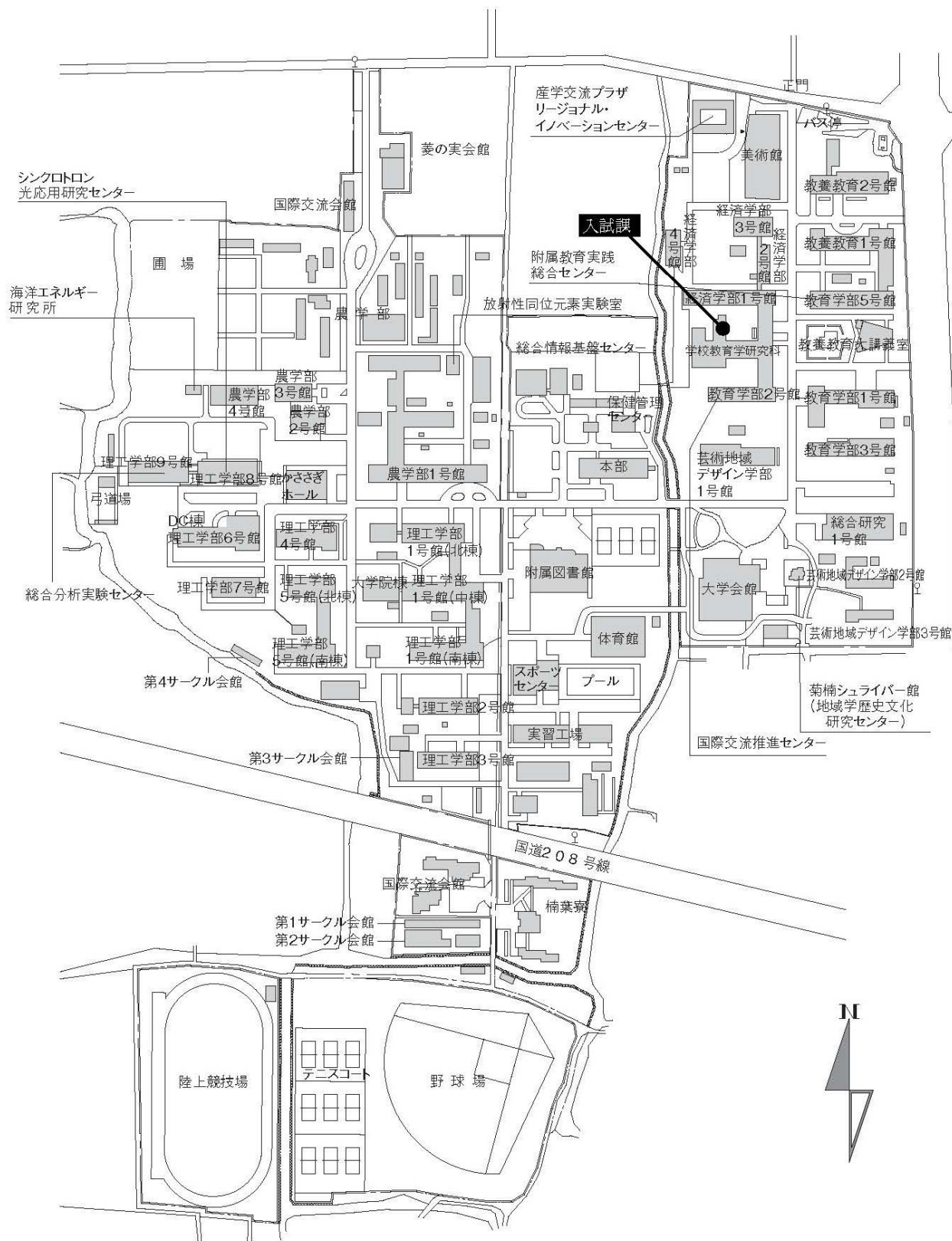
- (2) 入学後は、各学部の所定のカリキュラムに従って、卒業に必要な単位を修得しなければなりません。
(3) 在学年限は、2年以上4年以内とします。

6 教員免許状やその他資格の取得について

教員免許状の取得を希望する者（短期大学等で2種免許状取得者及び取得見込み者を含みます。）やその他資格取得を希望する者は、出願前に学務部教務課の理工学部担当（0952-28-8517）へ確認を行ってください。

VIII 佐賀大学建物配置図及び佐賀大学アクセスマップ

佐賀大学（本庄キャンパス）建物配置図



佐賀大学アクセスマップ



佐賀大学本庄キャンパス

佐賀駅バスセンターからバスで約15分
「4番のりば」から市営バス4番 佐賀女子短大・高校行、市営バス11番 西与賀行、又は12番 東与賀行、63番 佐賀女子短大・高校前行で「佐賀大学前」下車

佐賀大学鍋島キャンパス

佐賀駅バスセンターからバスで約25分
「2番のりば」から市営バス50番、又は51番で「佐賀大学病院」下車



佐賀大学有田キャンパス

JR佐世保線有田駅下車…徒歩15分
波佐見有田インターチェンジから車で5分



鍋島キャンパス

医学部
Faculty of Medicine
附属病院
University Hospital

本庄キャンパス

教育学部
Faculty of Education
芸術地域デザイン学部
Faculty of Art and Regional Design
経済学部
Faculty of Economics
理工学部
Faculty of Science and Engineering
農学部
Faculty of Agriculture
教養教育センター
Center for General Education
リージョナル・イノベーションセンター
Regional Innovation Center
附属図書館
University Library
美術館
Saga University Art Museum



SAGA UNIVERSITY 佐賀大学
国立大学法人

お問合せ先

佐賀大学 学務部入試課

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 TEL.0952-28-8178

✉ contact@mail.admin.saga-u.ac.jp

https://www.saga-u.ac.jp

Address

- 本庄キャンパス：〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
- 鍋島キャンパス：〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1-1
- 有田キャンパス：〒844-0013 西松浦郡有田町大野乙2441-1

佐賀大学



受験生応援サイト



チャンネル/佐賀大学



佐賀大Press



佐賀大学 学務部 入試課

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地

TEL 0952-28-8178

ホームページ <https://www.saga-u.ac.jp>

e-mail contact@mail.admin.saga-u.ac.jp

